

## 価格転嫁の必要性が“見える” 「収支計画シミュレーター」の提供を開始！

埼玉県では、エネルギー・原材料価格の高騰が長期化する中、県内企業が適正に利益を確保し、賃上げの正のスパイラルにつなげていけるよう、価格転嫁の円滑化に向けて取り組んでいます。

このたび、価格転嫁の有無が今後の企業収益に与える影響をシミュレーションできるツールを作成し、無料で提供を開始しました。

### 1 目的

企業が、適切な価格転嫁をしない場合、今後の収益にどの程度影響を与えるのかを理解し、経営に生かすことができるよう、物価高騰に見合った適切な価格転嫁の程度を分析できる「収支計画シミュレーター」を作成しました。

### 2 特長

- ◆ 「どれくらい価格転嫁すればよいか」が視覚的に分かりやすい
- ◆ 今後5年間の収支に対応し、経営計画の策定にも活用可能
- ◆ 様々な業種に対応
- ◆ 入力方法は相談窓口\*で丁寧にサポート
- ◆ 「価格交渉に役立つ伴走型支援」(無料)と併用することで、効果アップ!
- ◆ 一般的な表計算ソフトなので、経営者自ら操作・分析することも可能

\*入力方法のお問い合わせ先

埼玉県価格転嫁相談窓口(埼玉県中小企業診断協会内) : 048-762-3391

### 3 公開ページ

当該ツールは、下記のホームページにて公開しています。

<埼玉県ホームページ>

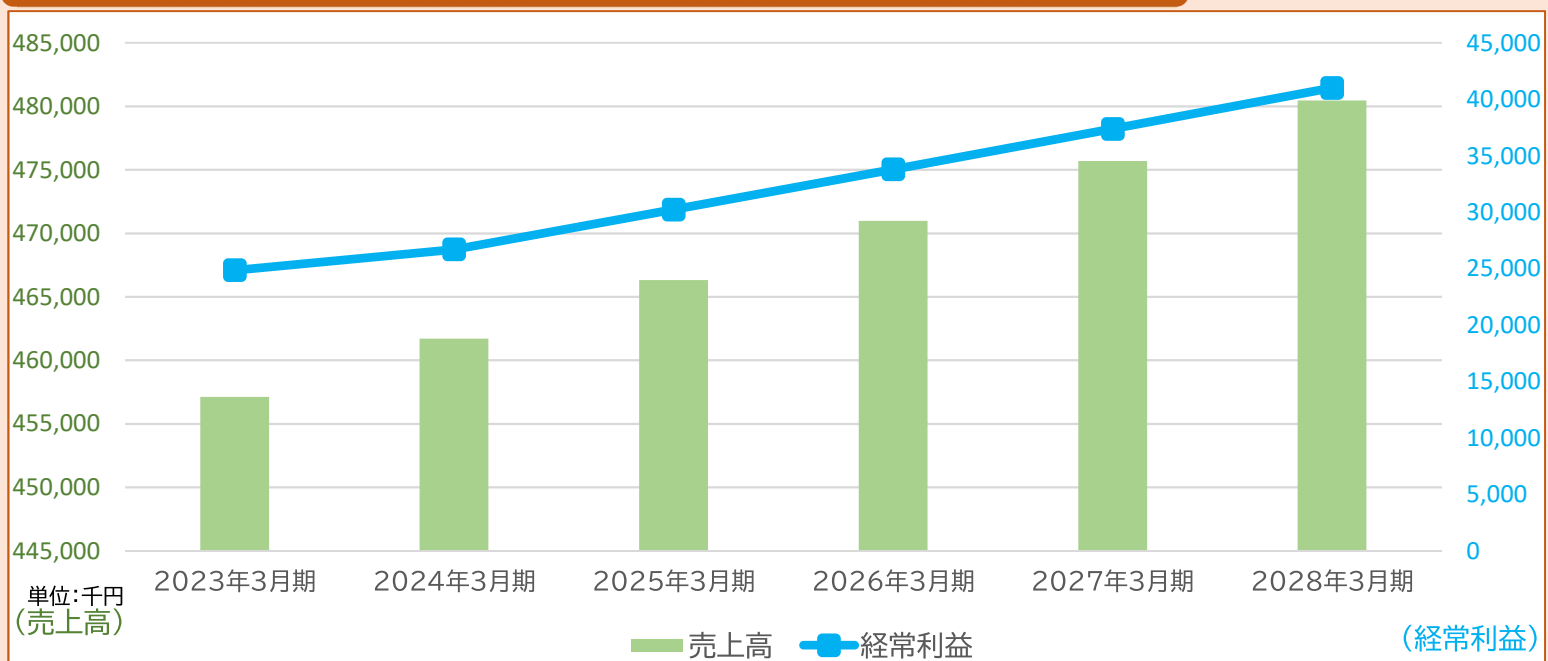
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0801/library-info/kakakukoushoutool.html>

# 収支シミュレーション診断

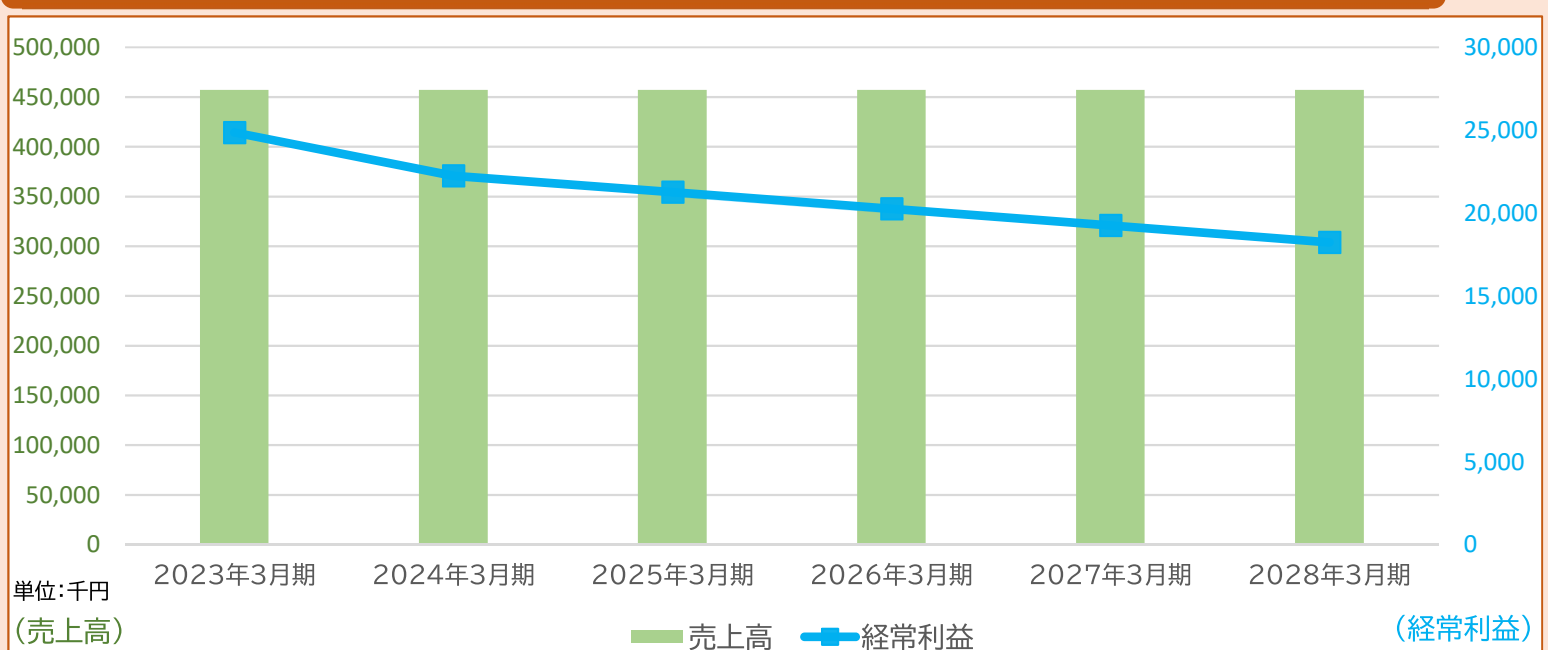
・価格転嫁を行うことで、売上高増加率が年平均+1.0%となることを仮定して試算した結果です。

・価格転嫁をしなかった（できなかった）場合、上記価格転嫁をした場合との経常利益の差は5年間の累計で▲67,873千円となります。

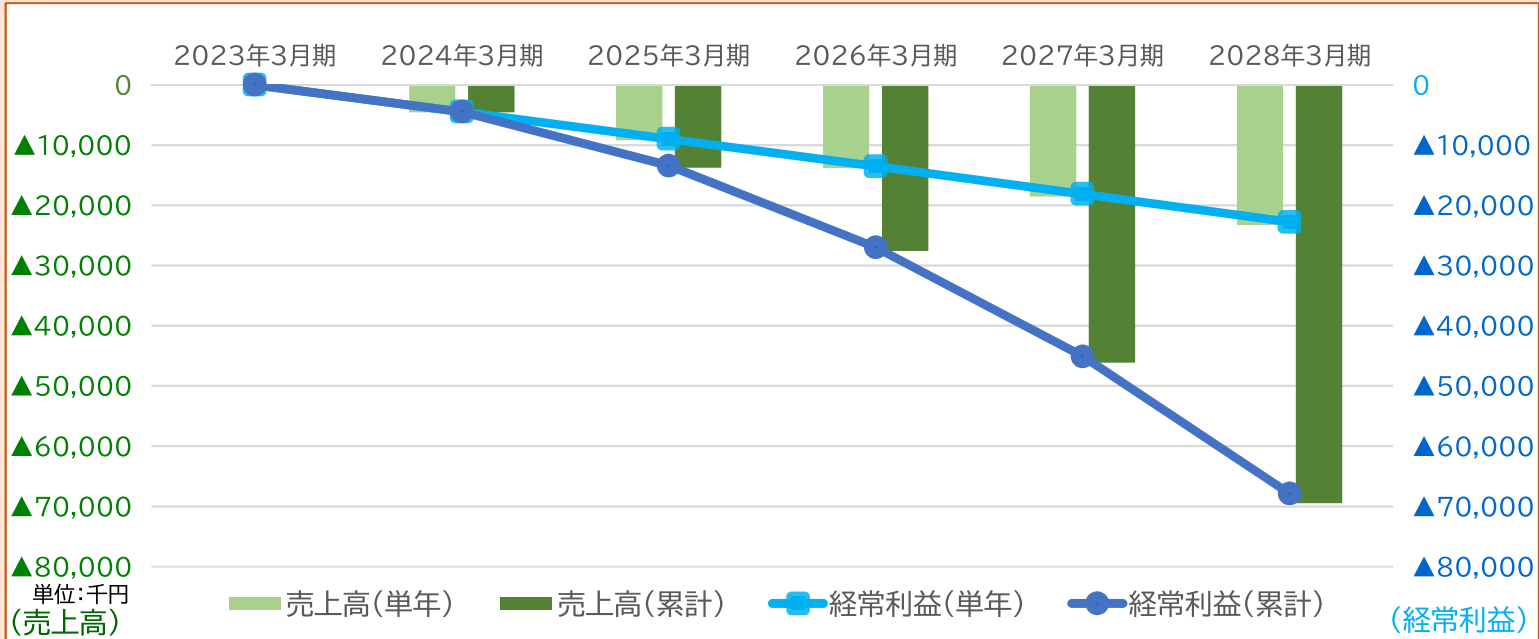
## ① 価格転嫁をした(できた)場合の売上高・経常利益の推移



## ② 価格転嫁をしなかった(できなかった)場合の売上高・経常利益の推移



### ③ 価格転嫁をしなかった場合に逸する売上高・経常利益の推移



### ～シミュレーション結果～

#### ① 価格転嫁をした(できた)場合

(単位:千円)	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	2028年3月期
売上高	457,127	461,698	466,315	470,978	475,688	480,445
人件費	138,162	139,139	140,127	141,124	142,131	143,148
営業利益	24,924	26,772	30,294	33,852	37,445	41,074
経常利益	24,863	26,711	30,234	33,791	37,384	41,013
経常利益増減額(前年比)		1,848	3,522	3,558	3,593	3,629
経常利益率	5.4%	5.8%	6.5%	7.2%	7.9%	8.5%

#### ② 価格転嫁をしなかった(できなかった)場合

(単位:千円)	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	2028年3月期
売上高	457,127	457,127	457,127	457,127	457,127	457,127
人件費	138,162	139,139	140,127	141,124	142,131	143,148
営業利益	24,924	22,307	21,320	20,322	19,315	18,298
経常利益	24,863	22,246	21,259	20,262	19,255	18,238
経常利益増減額(前年比)		▲2,617	▲987	▲997	▲1,007	▲1,017
経常利益率	5.4%	4.9%	4.7%	4.4%	4.2%	4.0%

#### ③ 価格転嫁をしなかった場合に逸する売上高・経常利益

(単位:千円)	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	2028年3月期
売上高(単年)	0	▲4,571	▲9,188	▲13,851	▲18,561	▲23,318
売上高(累計)	0	▲4,571	▲13,760	▲27,611	▲46,172	▲69,490
経常利益(単年)	0	▲4,465	▲8,974	▲13,529	▲18,129	▲22,775
経常利益(累計)	0	▲4,465	▲13,439	▲26,968	▲45,098	▲67,873

#### 注 釈

- ・①は、売上高増加率を含む全てのシミュレーションを反映したものである。
- ・②は、売上高増加率を0%(直近年度から売上高を固定)した場合の試算結果である(売上高増加率以外は全て反映)。
- ・③は、売上高及び経常利益について、各々②から①の数値を差し引いたものである。